

執筆 者 紹 介

立命館大学教授 大山 敷太郎

立命館大学教授 箕浦 格良

立命館大学助手 岡本 幸雄

立命館大学教授 淡川 康一

立命館大学経済学会委員

井上 巖次郎

淡川 康一

高橋 良三

箕浦 格良

山田 邦臣

高尾 忠男

浜崎 正規

あ と が き

「年の瀬」といふか、街の様子も人の心も何んとなしにあわたたしさを覚える。忘年会よ、年賀状よと、くだらぬことだとは思いますが、一カ年のくらしに折目をつけるたのしさもあって、ついつい世間なみに、この年の瀬を踏み渉ることになる。

研究室にいて好きな鞄冊に目をさらしておれば、まことに天下泰平ではあるが、ガス・ストロブの音が神経を刺激し、年末は年末なりに、ドアをノックする人も絶えない。思い出の十二月八日もあと一兩日に迫って、平和を誓う学生諸君の「不戦の集い」も、戦後十年の今回は特に盛大におこなわれるらしい。平和の聲の高さの蔭で、ひそかに原水爆の実験が進行し、軍備のための諸施設に巨費が投じられている。かつてジャーナリズムの上で華やかにおどっていたドラマティック・パシフィスト達は、今はなぜか沈黙勝ちにみえる。青年の純情と熱意のみが真に頼みの綱である。

来るべき年の平和と多幸を祈って、この集の「あとがき」に代えよう。(T)

☆毎々機関誌を御患投下さいまして別にありがとうございます。交換誌の御送付先は必ず左記に願ひ上げます。念のため。

京都市上京区広小路通寺町東入ル
立命館大学研究室 宛

振替口座番号 京都三三〇六八番
京都市西陣局区内広小路寺町東入
立命館大学経済学会宛

昭和三十年十二月二十日 印刷

昭和三十年十二月二十五日 發行

定価 百二十円

立命館経済学 第四巻・第五号

編集者 立命館大学経済学会

(高橋 良三)

印刷者 垣本 剛一

京都市上京区広小路通寺町東入ル
立命館大学内

發行所 立命館大学人文科学研究所

京都市左京区京都大学北門前

印刷所 株式会社 雄渾社印刷部

THE RITUMEIKAN ECONOMIC REVIEW

The Bi-monthly Journal of Ritumeikan University

VoI. IV

December 1955

No. 5

Contents

Treatises :

Sikitarô Ôyama : The Disintegrating Process of "Tomoko-
Domei" in Our Mining Labour. 1

Kakuryô Minoura : The Thought of Public Finance in
J. S. Mill (2) 50

Memoir :

Yukio Okamoto : On the Village Construction of Owari
in the Tokugawa Middle Period. 92

Material :

Kôiti Awakawa : The Budget of Hause-Hold as an Aspect
of Consumer's Geography.120



The Ritumeikan University Economic Society